

令和2年度第3回

すぎなミーティング報告書(令和2年12月20日開催)

「学校の未来を語ろう」

～子どもたちにとってより良い部活動とは?～

区では、区と区民が自由に意見交換をする場など、区民参加の仕組みづくりを進めています。その取り組みの一つとして、その時々 of 行政課題をテーマに区長と区民が直接意見交換をする場「～区長と話そう、聞いてみよう～すぎなミーティング」を開催しています。

今回は「学校の未来を語ろう」をメインテーマに、無作為抽出した2,000名の中から参加いただいた12名の方と、子どもたちにとってのより良い部活動について話し合いました。



区長の想い!



●これからの部活動を考える

今回はテーマを「部活動」に設定させていただきました。私は、これからの時代にふさわしい児童・生徒のスポーツ教育のあり方、指導をどのようにしていくべきかなどについて、試行錯誤しながらもしっかり作っていかねばならないと考えています。

●部活動を取り巻く学校の現状

学校の教員は大変忙しいのですが、その一つの要因として部活動の顧問が上げられます。部活動を指導したいという気持ちはあっても、顧問になって実際に関わると平日も休日もなく、時間に追われてしまいます。

このような中、部活動は果たして持続可能で発展性があるのでしょうか。教員が、適切な労働環境のもと、自分のキャパシティの中で子どもと向き合って指導できることが大切です。そのキャパシティを超えてしまっているような部活動は、転換していく必要があるのではないかと、そして、その代わりにどうしていくかということが課題となってきます。

●施設の有効利用

また、将来の地域スポーツ活動という面からみると、学校の体育館などを地域のスポーツ施設としてもっと有効活用することも必要なのでは、と感じています。これまで学校の施設は学校自らが管理してきましたが、今後は学校以外の時間帯と管理権限とを分け、公共施設としての位置付けとして有効活用できないか、などの研究をしています。

本日は、より良い部活動のあり方について、皆さんのいろいろなご意見や経験談などを聞かせていただき、今後の参考にしていければと思っています。

教育長の想い！

●部活動とは

「部活動は生徒の自主的、自発的な活動によって成り立つ」と国が定めた学習指導要領に書いてあります。

中学校の部活動は、平日は教員の勤務時間外である午後4時半から午後6時で行うのが一般的で、いわゆるボランティア活動になっています。そして、必ずしも部活動に専門の教員がいるわけではないため、全く経験のない運動部や文化部を担当することも多くあり、専門的指導も審判もできないといった課題があります。

また、遅くまで部活動を指導した後に次の日の授業の準備をしなければならず、働き方改革にも大きな課題を残しています。このように、学校の部活動を学校の力だけで運営していくことがかなり困難となってきています。ぜひ今日はさまざまな現状をご理解いただき、皆さんとアイデアを共有できればと思っています。



教育委員会事務局の説明

●現在の部活動の状況

部活動には、子どもたちがスポーツや文化活動に自主的に参加する場を確保し、授業とは異なる集団での多様な仲間づくりや自主性・社会性を育成する役割があります。

現在、区立中学校は23校で、サッカー部や野球部などの運動部が150部、吹奏楽部や合唱部などの文化部が115部、合計265部が活動しています。

●これまでの区の取り組み

これまで区では、地域の経験者などがボランティアとして顧問の教員と二人三脚で指導する「外部指導員」を導入し、平成25年度からは国や他自治体に先駆けて、スポーツの専門家のスキルを活かした「部活動活性化事業」を行うことで、教員の負担軽減と専門的な指導を受け、生徒が楽しめる部活動を実現してきました。さらに、令和2年度からは、顧問として生徒の引率も可能な、国の制度である「部活動指導員」を3校の3部活動で試行的に導入するなど、先進的な取り組みを行ってきました。



●未来に向けて

今後に向けては、学校部活動から地域部活動への転換を検討していますが、まずは、例えば、土・日、休日の部活動の段階的な地域への移行が考えられます。また、地域で学校施設の有効利用が進んでいくことで、地域スポーツが成長してくれば、将来的には部活動の新たな受け皿になっていくということも考えられます。

参加者の主なご意見

●地域で部活動を支えるしくみを

若い世代の中にも、子どもたちの指導を手伝いたいのに情報がないために手伝わせない、という人も多いのではないかと思います。情報提供には、今の時代に合ったSNSをもっと活用するのが良いと思います。

●自主的な部活動運営

子どもたちが自分たちの問題点を考え、目標を決めて、主体的に練習を組み立てられるのが理想的だと思います。ただ、そうはいつでも安全管理といった点では大人の目が必要なので、地域の方にお手伝いいただいて、地域の中で部活動を活発にしていければよいと思いました。

●自分の考えが言える環境

生徒が部活動を通じて自分はどうなりたいたいのかを言えて、それをサポートする杉並区や教育現場であつたらいいと思います。



●未来の部活動のために

地域の人たちと交流できるイベントや参加しやすい環境づくりが大切だと思います。参加した子どもたちがいろいろな価値観に触れ、多様な経験をするきっかけになるとと思います。

●学校の想いを地域に発信

学校が子どもたちにどのような力をつけさせたいと考えているかをもっと地域の人に発信し、支援を得ていくことが大切だと思います。

●子どもたちが中心になって

先生、地域、保護者等が一体となって、子どもたちが楽しいと思える環境づくりができればいいと思います。その中で、子どもたちが中心となって、意外なアイデアが出るのではないかと思います。



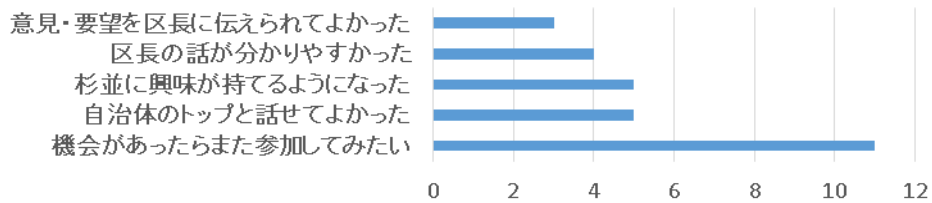
すぎなミーティングを終えて

今後の部活動のあり方について、さまざまな思いやアイデアが出されました。

ミーティング終了後のアンケートでも、「部活動を取り巻く現状と課題を知り、解決に向けたさまざまなアイデアを聞いて良かったです」「これまでも教員だけでなく、外部指導員や部活動指導員など多くの力が部活動を支えていることを初めて知りました」「さまざまな立場の方々が地域のことを考えてくれていることが驚きでした」などの感想をいただきました。

いただいたご意見は今後の取り組みに生かしてまいります。ありがとうございました

すぎなミーティングに参加した感想(複数回答有) (人)



令和2年度第3回すぎなミーティング報告書

- ・開催日 令和2年12月20日
 - ・参加者 区民12名、区長、教育長、教育委員会事務局次長ほか
- 令和3年3月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111